

国の重要無形民俗文化財 相馬野馬追 7年ぶりに5つの「旧郷」すべてが出陣



画像:福島民報 2017.7.30

(福島民報、LIFULL HOME'S PRESS、wikipediaほか)
 一千年有余年の歴史を誇る国指定重要無形民俗文化財「相馬野馬追(そうま・のまおい)」が7月29日に開幕した。東日本大震災と東京電力福島第一原発事故後初めて、南相馬市小高区の相馬小高神社から騎馬武者が出陣し(※7年ぶり)、区内で威風堂々の行列を見た。勇壮な姿に沿道の住民から歓声が上がった。

昨年7月に避難指示の大部分が解除された小高区を中心とする小高郷騎馬会から65騎、浪江や双葉、大熊町を中心とする標葉(しねは)郷騎馬会の47騎が相馬小高神社から出陣。小雨模様の中、JR小高駅前を通り、小高区上町までの約2キロを進軍した。宇多郷、北郷、中ノ郷もそれぞれ出陣。五郷騎馬会から計約440騎がメイン会場の原町区の雲雀ヶ原祭場地に集結し、宵乗り競馬などを繰り広げた。

30日の本祭では祭場地で神旗争奪戦や甲冑(かっちゅう)競馬などが行われる。最終日の31日は相馬小高神社で野馬懸(のまかけ)の神事が執り行われる。

●相馬野馬追(そうま・のまおい)は、福島県相馬市中村地区を初めとする同県浜通り北部(旧相馬氏領。藩政下では中村藩)で行われる相馬中村神社、相馬太田神社、相馬小高神社の三つの妙見社の祭礼である。

●馬を追う野馬懸、南相馬市原町区に所在する雲雀ヶ原祭場地において行われる甲冑競馬と神旗争奪戦、街を騎馬武者が行進するお行列などの神事からなる。これらの神事に関しては1952年、国の重要無形民俗文化財に指定されている。

●妙見三社の神事ならびに君主の行列のため、上から見下ろすのはいけないことだとされている。そのため、出陣式の時に通る中村第一小学校前の歩道橋は封鎖され、一部のカメラマン等を除いて上ることは出来ない。また、付近の民家でも2階から見物することは自粛するのが通常。移動などのため、騎馬行列を横切ることとしてはいけない。

【復活へのみちのり】
 相馬野馬追は震災直後の2011年から、規模を大幅に縮小し「東日本大震災復興 相馬三社野馬追」として開催された。例年であれば騎馬は全部で4百騎以上が出場するところ、2011年は82騎。来場者数も3万7千人と、例年の1/6程度にとどまった。

「警戒区域である小高郷(現在の南相馬市小高区)と標葉郷(双葉郡浪江町、双葉町、大熊町など)の方たちは、全国各地の避難先からの参加となりました。参加者たちも苦境のなかで開催したのは、何かしらの形で継続したいという強い意志と、犠牲になった方々への鎮魂と復興への願いによるものでした。」
 (南相馬市役所)

翌2012年には各祭場地の規制解除、規制緩和を受け、前年は開催を見送った2日目の「お行列」「甲冑競馬」「神旗争奪戦」、3日目の「野馬懸」も従来の会場で開催され、ほぼ例年に近い形に復活した。自治体や乗馬クラブ、牧場、ZOOなどの支援により全国各地に避難していた地元馬も無事に帰郷、震災前の約8割にあたる386騎の騎馬武者が出陣し、来場者数も3日間でのべ15万9千7百人と大きく回復した。

標葉郷の双葉郡浪江町や双葉町、大熊町などは避難区域指定が解除されておらず、避難先から参加する人も多い。また、震災により馬を手放した人もおり、騎馬の約4割は他の地域から馬を借りて出場しているという。それでも、今年5つの郷全てからの出陣が叶ったことで、野馬追はまた一歩もとの姿に近づいたと言えるだろう。

(要約は文責による)



福島県楢葉町の竜田駅。
 富岡方面は避難区域なので鉄道はここまで。でも車内放送で「富岡方面はお乗り換えです」って言ってて、いつになるかわからないけどつながる日を願わずにはいられなかった。
 (2017.8.30 on Twitter)

we support!

RQ
 災害教育センター

MONTHLY

「東北に黒龍を送ろう! 大作戦しんぶん」改め
 復興支援『すけさきた』
 かめばはこ

「すけさきた」とは
 宮城県登米市あたりの言葉で
 「ボランティアに来たよ」という
 意味である

SEPTEMBER
11
 2017